

経済連情報 10

安全・安心・新鮮でおいしい
静岡県産の農畜産物をお届けします。

● 2024. 10
● NO.1321

JA葬祭県下統一広報活動のご紹介 ～「静岡県のJA葬祭」、「JAの家族葬」 認知度向上の取組～

Main topics

JA葬祭県下統一広報活動のご紹介
～「静岡県のJA葬祭」、「JAの家族葬」
認知度向上の取組～…………… 01

topics&news

水稻の病害虫防除を学ぶ
IPM技術指導者養成研修を開催…………… 03

酪農体験で学校の食育強化へ
牧場・乳業ふれあい体験研修を開催…………… 03

全国の茶産地が品質を競う
第78回全国茶品評会…………… 04

茶の審査技術を競う
第39回静岡茶生産青年茶審査技術競技会 …… 04

系統流通網活用で物流円滑に
高機能バイオ炭の物流実証を実施…………… 05

学生が消費宣伝企画を提案
夏季インターンシップを開催…………… 05

生産基盤の維持強化を
第70回静岡県花卉園芸組合連合会通常総会 …… 05

未来の野球少年を食で応援
JA全農WCBF少年野球教室に記念品を贈呈 …… 06

ECサイト活用へ
JAタウン担当者研修会を開催…………… 06

揉一ひとえつゆひかりブレンドをPR
Jリーグ試合会場でコマーシャルを放映…………… 06

最新研究紹介

イチゴ「きらび香」の新作型導入
シミュレーションによる高収益モデルの策定…………… 07

お知らせ

テレビ番組「しずおかごはんが食べたい!」のご紹介…………… 09

産地直送通販サイトJAタウンからお得なキャンペーンのご紹介…………… 09

職員紹介…………… 10

野球部大会出場報告…………… 10



▲JA全農WCBF野球教室で県産和牛を贈呈



▲第78回全国茶品評会

JA葬祭県下統一広報活動のご紹介

「静岡県のJA葬祭」、

「JAの家族葬」認知度向上の取組

I はじめに

平成23年のテレビCM作成よりスタートした県下JA葬祭の統一広報活動は今年度14年目を迎えました。メディアの多様化が進む中でTVC、ラジオCM、HP制作、WEB広告など時代の変化を捉えながら、「静岡県JA葬祭ブランド」の確立を目標に取り組んでまいりました。現在の葬儀業界は、飽和状態といわれるほど競争が多く、集客のために必要な広報活動は今までに大きな役割を担う取組となっています。

今回のメイントピックスでは、県下JA葬祭が令和6年度より新たに取組む県下統一広報活動の内容について詳しくご紹介します。

II JA葬祭事業の動向

コロナ禍により加速した、葬儀の小規模化や家族葬・直葬の増加は、コロナ終息後も増加傾向にあり、今後本格的な多死社会に直面していくなかで、葬儀単価の維持と多様な

葬送のカタチに対応できる人材育成、施設のリノベーションはJA葬祭共通の課題となっています。そうした動向や新規参入による価格競争の激化など、葬祭事業を取り巻く環境は今後一層厳しくなることが予想され、本事業の永続的発展のため、基盤強化に取り組まなければなりません。

多様化する近年の小規模葬

- ① 家族葬 親族やごく親しい人だけで行う小規模な葬儀
- ② 直葬 通夜や告別式を行わず、直接火葬を行う形式
- ③ 一日葬 通夜を省略し、葬儀と告別式を1日で行う形式
- ④ 自由葬 故人の個性や遺族の希望に合わせた宗教にとらわれない自由な形式の葬儀

小規模葬需要の高まりを受け、県下JA葬祭では、家族葬プランの充実やサービス内容、料金の見直しを図るとともに家族葬専用ホールの設置検討を進めています。また、JA

所有のホールは、規模が大きいという認識から、家族葬を求めるターゲットから敬遠される傾向があることから「JAの家族葬」のブランドイメージ定着が求められています。

これらの課題への対応については、本会生活葬祭課を事務局とする「静岡県農協葬祭事業連絡協議会」を組

織し、葬祭事業を行うJAとJA子会社による協議の場を設置しています。年3回の協議会の他、葬祭担当者のスキルアップを目的とした研修の開催や優良な取組・運営を行う葬祭ホールの視察などを通じて、県内の葬祭事業の活性化と情勢・葬祭ニーズの把握、利用者サービスの向上に努めています。

III 令和6年度県下統一広報活動

県下JA葬祭では、令和2年度より4年間、潜在層を中心にウェブ広告を展開し「JA葬祭」、「JAの家族葬」の認知度向上に向けた取組を展開してきました。令和6年度は、宣伝広告活動において大事なポイントである想起率に着目した取組と、ウェブ広告の平行展開を実施します。統

JAのお葬式

あなたの「その時」に寄り添う



▲等身大パネル



▲プロモーション動画



▲ポスター

一キャラクターには、県内で活動するフリーアナウンサーの鬼頭里枝さんを起用し、プロモーション動画やポスター、等身大パネルなどの広告資材を製作しました。

プロモーション動画のコンセプトは「あなたの『その時』に寄り添う」。突然「喪主」になってしまった人々の不安を払拭するべく、JA葬祭を擬人化した妖精に扮した鬼頭さんがJA葬祭の頼れるポイントをささやくというストーリーで、JA葬祭が相棒のように喪主に寄り添いサポートするようすを描いています。ポス

ターなどで活用するメインビジュアルでは、困っている人にすぐに寄り添えるよう、JA葬祭の妖精が街を眺めて見守る姿を採用。日常的なイメージ（街並み）を取り入れ、いつかその時がきて「JA葬祭なら安心」に繋がる身近で頼れるJA葬祭を訴求します。

また、プロモーション動画はウェブ広告掲載の他、本会公式YouTubeチャンネルでも公開を予定しています。

IV おわりに

今回のメイントピックスでは、「静岡県のJA葬祭」、「JAの家族葬」のブランドイメージ定着と認知度向上に向け、今年度県下JA葬祭が取り組む統一広報活動の内容について詳しくご紹介しました。県下JA葬祭は、豊富な実績と経験、地域に根差した組織の強みを活かし、多様化するお客様のニーズに応える提案とサービスの充実を図ります。

また、現代のライフスタイルや価値観の変化に対応するため、静岡県

農協葬祭事業連絡協議会を通じたネットワークの強化と情報共有を図り、JA葬祭の地域シェア維持・拡大に取り組んでまいります。

問い合わせ先

● 担当：くらし支援部生活葬祭課
電話：054-284-9898



▲県内のJA葬祭センターはこちら

水稲の病害虫防除を学ぶ IPM技術指導者養成研修を開催

県産地技術課題解決研究会（事務局：生産振興開発課）と県は8月2日、磐田市の県農林技術研究所で「令和6年度IPM技術指導者養成研修」をオンラインで開き、県やJAの技術指導担当者、静岡大学の学生など関係者約60人が参加しました。産官学技術交流事業の一環で、IPM（総合的病害虫・雑草管理）に関する専門知識を持つ営農指導員の養成が目的。今回は水稲をテーマに病害虫防除に関する講義や実習を行いました。



▲中継でイネの病害虫を紹介する研究員

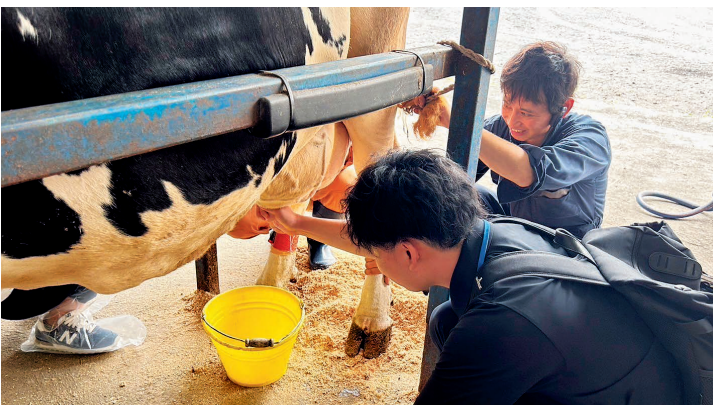
研修では、県病害虫防除所の研究員が水稲に発生する病害虫の生態と防除方法を講義しました。今年度は、不稔籾や斑点米などを引き起こすイネカメムシの発生数が多いことを報告し、発生源となる水田周辺の畦畔や休耕田のイネ科雑草の定期的な除草を呼びかけました。薬剤防除では、散布剤は出穂期とその7～10日後の2回散布を行うと防除効果が高いことを説明。薬剤抵抗性個体の対策として、同一系統の連用を避けた散布も紹介しました。



▲イネカメムシ

酪農体験で学校の食育強化へ 牧場・乳業ふれあい体験研修を開催

県酪農教育ファーム推進員会（事務局：畜産課）と県学校給食用牛乳協議会は8月21日、学校職員を対象とした「牧場・乳業ふれあい体験研修」を富士宮市の松下牧場・富士ミルクランドで開きました。研修は、体験学習を通じて学校職員に酪農や乳業に関心をもってもらい、食育と牛乳飲用の指導につなげてもらうことが目的。当日は、県内の小中学校の教員や栄養士などの学校給食関係者



▲搾乳体験

ら40人が参加しました。参加者は、搾乳、給餌、ブラッシングなどの作業やバター、アイスクリーム作りを体験しました。牛とふれあいながら実際の酪農現場が体験できる研修内容は好評で、定員を超える応募があったことから例年より規模を拡大して実施し、多くの参加者に酪農への理解を深めてもらいました。



▲給餌体験

全国の茶産地が品質を競う 第78回全国茶品評会

全国茶生産団体連合会及び第78回全国お茶まつり静岡大会実行委員会は8月27日から4日間、静岡市葵区の静岡茶市場で、「第78回全国茶品評会」を開きました。

普通煎茶、深蒸し煎茶、かぶせ茶などの7種8部門に18都府県から787点の出品があり、本県からは最多の174点が出品されました。各都府県の茶業研究機関や県などの職員ら20人が、茶の外観や香気、水色、滋味などの内質を審査しました。



▲茶の外観を審査する審査員

審査の結果、本県からは、普通煎茶（4kg）の部と深蒸し煎茶の部の2部門で最高位の農林水産大臣賞を受賞しました（表参照）。

審査長を務めた農研機構果樹茶業研究部門の佐藤安志茶業研究領域長は「今年度の一番茶は3月の気温低下で新芽の生育が遅れたものの、4月の気温上昇など栽培管理や摘採時期の判断が難しい年だったが、出品された茶は優れた品質のものが揃っていた。栽培技術と製造技術の高さに感銘を受けた」と講評しました。

1等1席 農林水産大臣賞

・普通煎茶（4kg）の部

春野茶振興協議会

栗崎 克之（浜松市）

・深蒸し煎茶の部

農事組合法人東山茶業組合

代表理事 杉山 裕朗（掛川市）



茶の審査技術を競う 第39回静岡茶生産青年茶審査技術競技会

静岡県茶生産青年会（事務局…茶業課）は9月6日、静岡市葵区の静岡茶市場で「第39回静岡県茶生産青年茶審査技術競技会」を開き、県内9JAから62人が参加しました。

競技の結果、団体の部はJA遠州中央Bチームが、個人の部はJA八伊ナンの原間信太郎さんが1位に輝きました（JA遠州中央は3チーム参加）。

競技会は、茶生産青年の技術向上と連帯意識の高揚を図り、茶の品質を判断する技術の錬磨が目的。参加者は、茶の外観による生産地の判定や、飲み比べによる生産地、品種の判定など3つの審査を行いました。



▲茶の外観から生産地を判定する参加者

個人の部の成績上位15人は、1日に同会場で開かれる全国大会に出場します。



▲表彰を受ける個人の部入賞者



▲飲み比べによる審査の様子

系統流通網活用で物流円滑に 高機能バイオ炭の物流実証を実施

肥料農業課は8月8日、静岡県信連と農業ベンチャー企業トーイングと連携し、同社が開発・販売する高機能バイオ炭「宙炭（そらたん）」のJA流通網における物流実証を行いました。「宙炭」の活用はこれまで、県信連が同社と連携協定を締結し、JAや生産法人とのマッチングをすすめる、同社が水稻や葉物野菜などを中心に県内で実用化に向けた試験栽培を行ってきました。

今年度は県内産地での実用化を見据えた供給ルート構築のため、本会が取り扱いを開始。経済連を通じた系統物流の実証は全国初の取組となりました。当日は、約1300キの「宙炭」がJA遠州中央とJAふじ伊豆に運び込まれ、JA遠州中央ではキャベツ、JAふじ伊豆ではセルリーのほ場で施用しました。「宙炭」は、もみ殻などの未利用バイオマス（生物由来資源）を使ったバイオ炭に同社で培養

した微生物を付加した土壌改良資材。有機肥料と併せて農地に施用し、土づくりの促進や作物の収量・品質の向上による化学肥料の使用低減、温室効果ガスの排出削減などが期待されています。今後は県内のJAグループが協力し、栽培実証や実用化を進め、持続可能な農業の実現を目指します。



▲連携イメージ

学生が消費宣伝企画を提案 夏季インターンシップを 開催

人事教育課は8月20日と21日の2日間、就職活動中の大学生を対象にインターンシップを開催し、対面とオンライン合わせて50人が参加しました。

参加した学生は、販売情報センターで行う野菜の分荷作業を模擬体験しました。また、グループワークでプログラムの最後には若手職員による就活アドバイスも行いました。



▲消費宣伝企画を発表する参加学生

生産基盤の維持強化を 第70回静岡県花卉園芸 組合連合会通常総会

静岡県花卉園芸組合連合会（事務局・野菜花卉課）は8月22日、県農業会館で通常総会を開き、県やJAなどの関係者ら22人が出席しました。総会では、令和5年度の事業報告および令和6年度の事業計画について承認を得ました。

本年度も引き続き、「第40回静岡県花の展覧会」の開催、「ふじのくに花の都」のおか推進協議会への参画や販売促進活動などを通じ、県産花きの消費拡大に取り組みます。





▲下段中央右から浜松市 中野市長、JA全農広報・調査部 山口次長、
本会 藤野常務と講師ら関係者



▲バッティングを指導する真中さん



▲走塁を指導する辻さん

未来の野球少年を食で応援

JA全農WCBF少年野球教室に記念品を贈呈

J A全農が特別協賛する少年野球教室が9月7日、浜松市浜名区の明神池運動公園野球場で開催されました。本会からは開催県を代表し、参加選手に本会ブランドの飲料「みかん日和」を、講師には「特選和牛静岡ぞだち」などを記念品として贈呈しました。

本教室は、「野球の楽しさ」や「食の大切さ」を子どもたちに伝えようと、世界少年野球推進財団（WCB

F）が主催し例年全国各地で開催しています。

今回の浜松教室では、元プロ野球選手の阿波野秀幸さん、田村藤夫さん、辻発彦さん、真中満さんから講師6人が、参加した同市の少年野球チーム7チームに投球・守備・バッティング・走塁の基本を指導しました。また、指導者向けの講習会や保護者向けのスポーツ栄養教室も行いました。

ECサイト活用へ JAタウン担当者 研修会を開催

流通開発課は8月22日、静岡市内で通販サイト「JAタウン」の担当者研修会を開き、県内JAの担当者ら13人が参加しました。

研修会では、同課が本会ショップ「しずおか『手しお屋』」の基本戦略や販売促進の取組を報告した他、商品の見せ方やキャンペーン展開のコツなどを紹介しました。

また、優良事例としてJA全農兵庫県本部の担当者が同JAのショップ「あつめて、兵庫。」の営業推進や商品開発の取組を紹介しました。

参加者は業務の課題や各JAでの取組状況などを共有し、JAタウンの積極活用に向けた、連携を強化しました。

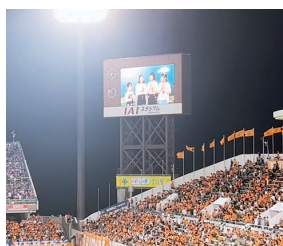


揉一ひとえつゆひかりブランドをPR Jリーグ試合会場で コマーシャルを放映

茶業課は9月7日、静岡市清水区の一Aースタジアム日本平で開催されたJリーグ（日本プロサッカーリーグ）清水エスパルスの試合で「揉一ひとえつゆひかりブランド」のコマーシャルをスタジアム大型スクリーンで放映しました。また、チラシの配布も行いました。

コマーシャルは試合開始前に2回、ハーフタイム、試合終了後の計4回放映さ

れ、来場した1万6千人にPRしました。動画は本会公式YouTubeチャンネルで視聴可能です。



CM視聴はこちらから▶

農林技術 研究所 だより

イチゴ「きらび香」の 新作型導入シミュレーションによる 高収益モデルの策定

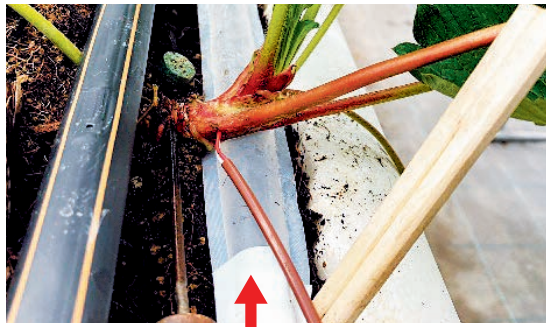
一 はじめに

静岡県は平成27年にイチゴの新品種「きらび香」を育成しました。「きらび香」には早生性や連続出蓄性、果実の糖度、硬度に優れるという長所があります。このうち早生性、連続出蓄性の特性を最大限に生かし、高単価時期である10月に頂果房を、12月に第一次腋果房を収穫できる超促成作型を開発しました。（経済連情報2024年6月号参照）

二 超促成作型の開発

一般的に、イチゴの花芽分化を促進するためには低温・短日・低窒素の条件が有効であることが知られています。育苗期においては早期出荷開始を目的に、低温・短日条件とする夜冷短日処理が行われています。

しかし、頂果房の花芽分化を前進しすぎると一果重が減少したり、次の果房の出蓄まで間隔が空いてしまったりする問題がありました。



冷却チューブ

図1 クラウン冷却処理

これらの問題を解消するため、当所では夜冷短日処理にクラウン冷却処理（図1）を組み合わせ、10月から12月までの連続した収穫を実現しました。市場単価の高い10月から頂

花房の収穫を開始するとともに、需要期である12月から2番花房の収穫を開始することが可能になりました。当所の栽培試験では、花芽分化苗を9月末に定植する普通作型と比較し年内収量は1.5倍以上、5月末までの収量も1割ほど多いことを確認しています。

三 超促成作型導入の設備投資

開発した超促成作型を導入するために必要となる設備投資額を試算しました。クラウン冷却処理をするにあたって、夜冷育苗装置（12.5万円/10a）、クラウン冷却装置（250万円/10a）が必要となります。年間の固定費が53万円/10a、変動費が8.9万円/10a増額しますが、収量が増加することで、所得は普通作型と比べ、45万円/10a増加すると試算されました。

これら設備の投資回収期間を試算すると、超促成作型導入による増収で、自由に使える資金は年98万円/

10a増加するため、設備投資額は375万円÷98万円≒3.8年で回収が可能となります。

四 超促成作型を導入したイチゴ高収益経営モデルのシミュレーション

開発した超促成作型をイチゴ経営に導入した際の収益性について、シミュレーションしました。シミュレーションは、所得が最も大きくなる作型を組み合わせ、面積別（20a、30a、40a）にイチゴ高収益経営モデルを試算しました。作型は、開発した①超促成作型に加えて、②普通作型、③夜冷作型、④延長作型（普通作型の収穫終了期間を7月まで延長）、⑤超促・延長作型（超促成作型の収穫終了までの期間を7月まで延長）の5つの作型を用いました（図2）。また、労働力は、家族労働力2人に、面積に応じて必要となる臨時雇用人数を増やすよう試算しました。

私が紹介します！



静岡県農林技術研究所
農業ロボット・経営戦略科 研究員
塩田 七海
(現 静岡県くらし・環境部 生活環境課 技師)

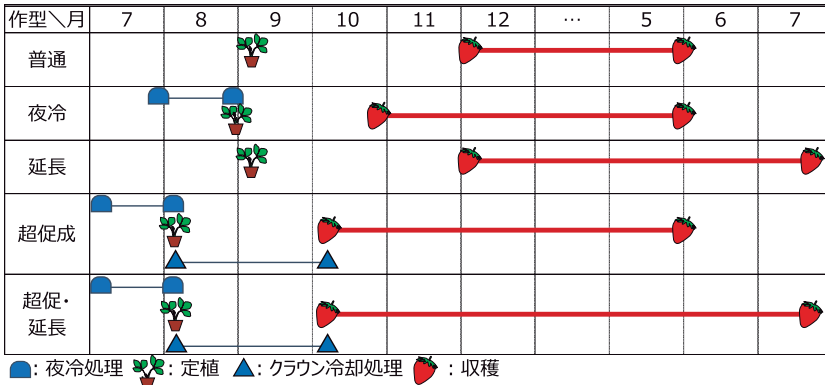


図2 シミュレーションに用いた作型

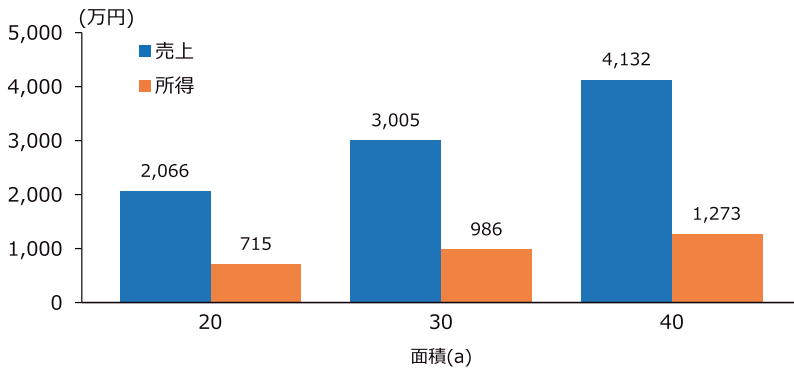


図3 シミュレーションによる規模別のイチゴ売上、所得

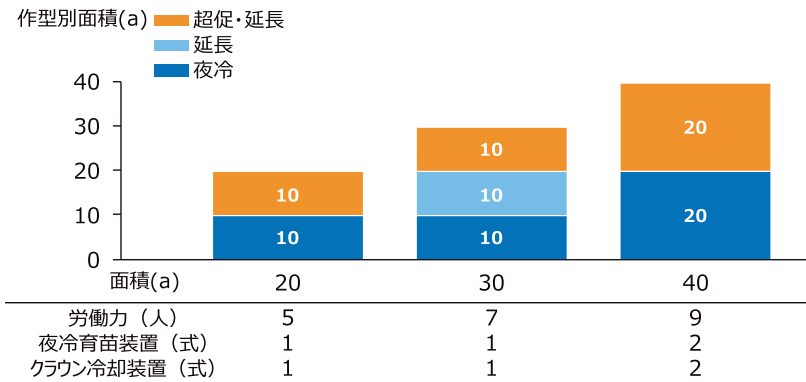


図4 シミュレーションによる規模別のイチゴ作型構成、労働力、必要設備

シミュレーションの結果、イチゴ経営面積20aでは、超促成+延長作型10a、夜冷作型10aの作型構成において所得が最も大きくなり、売上は2,066万円、所得は715万円と試算されました(図3)。この時に必要な労働力は最大5人で、夜冷育苗装置は1式、ク라운冷却装置は1式必要となります(図4)。

aの作型構成の作型構成において所得が最も大きくなり、売上は3,005万円、所得は986万円と試算されました(図3)。この時に必要な労働力は最大7人で、夜冷育苗装置は1式、ク라운冷却装置は1式必要となります(図4)。

1、273万円と試算されました(図3)。この時の必要な労働力は最大9人で、夜冷育苗装置は2式、ク라운冷却装置は2式必要となります(図4)。

なお、今回のシミュレーションでは、繁忙期である収穫期間中の労働力が大きく変動しました。これは、所得の最大化を優先したシミュレーションを行ったためです。今後は、所得の最大化に加え、収穫期間中の

五 おわりに

今後、本作型の県内イチゴ産地への普及を図っていくことを目的に、「きらび香」新作型導入のための技術マニュアルを作成しています。

経営研究においては、経営者が経営状況を自ら表計算ソフトに入力することで、最適な経営モデルを簡単にシミュレーションできるソフトを開発し、超促成作型の導入をサポートしてまいります。

労働力が平準化される作型を組み合わせたシミュレーションも検討する必要があります。

また、今回の経営モデルは、病害虫の発生が抑えられていることを前提にしています。延長作型や超促成・延長作型では、病害虫が発生しやすい時期に育苗と収穫を同時に行うため、病害虫対策にも配慮が必要です。

磐田市富丘678-1
 静岡県農林技術研究所
 農業ロボット・経営戦略科
 agrikeiei@pref.shizuoka.lg.jp
 TEL: 0538-36-1551

「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡)

担当:食糧部 食糧課(TEL:054-284-9737)

静岡県産米麦流通連絡協議会(事務局:食糧部)は、テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」(テレビ静岡・全11回放送)に協賛し、県産米のPRを行っています。

令和6年度の第5回目(9月21日)の放送では、タレントの村上佳菜子さんと北村花絵アナウンサーが島田市と吉田町から「静岡コシヒカリ」の新米を紹介しました。

番組では、JAハイナン流通販売部の大石光太さんがビデオメッセージで出演し、「島田・吉田町エリアでは、大井川用水を使って育てているため、より美味しいお米になります、新米の光沢や香りもぜひ楽しんでみてください」と話し、同JA管内で栽培された「静岡コシヒカリ」をPRしました。



産地直送通販サイトJAタウンからのお知らせ

お得なキャンペーン実施中です!

JAタウンでは、10月1日(火)~11月30日(土)の「JAグループ国消国産月間」に、「国産農畜産物のお客さま送料負担なしキャンペーン」を開催します!

「国消国産月間」の取り組みの一環として、継続的に国産農畜産物を購入していただくきっかけをつくるため、キャンペーン期間中、全国各地7,000以上の対象商品をお客さまの送料負担なしで購入することができます。

JAタウンの本会ショップ「しずおか手しお屋」でも対象商品をご用意しますので是非ご利用ください!



しずおか手しお屋 🔍 検索

◀「しずおか手しお屋」ページはこちらから

担当:営業部 流通開発課(TEL:054-284-9728)

職 員 紹 介

JAや取引先の皆様に推進などでお伺いしている本会職員を紹介します。

趣味・特技

趣味は野球観戦とバイクに乗ることです。入会してから、帰宅後にプロ野球を観ることが習慣となりました。最近の目標は、北海道のエスコンフィールドで試合を観戦することです。

担当業務

西部生産資材課では、肥料に関する業務を担当しています。肥料の流通や各地域の圃場で行われる生育調査に同行し、実際の農業現場に触れながら多くのことを経験させていただいています。

コメント

入会から半年が経ちました。まだまだ分からないことが多く、肥料に関して勉強の毎日です。一日でも早く一職員として、皆様のお役に立てるよう、精進していきます。



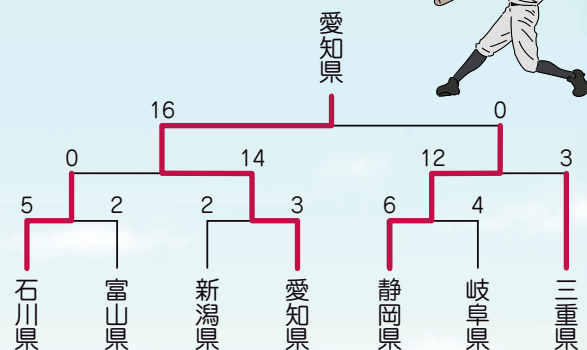
西部生産資材課
はなむら りゅうたろう
花村 竜太郎



令和6年度 東海北陸地区県経済連・ 全農県本部親善野球大会



9月6日と7日、本会野球部は、三重県で行われた令和6年度東海北陸地区県経済連・全農県本部親善野球大会に出場しました。各県から全7チームが出場し、トーナメント形式で優勝を争いました。本会は準優勝と大健闘し、職員相互の親睦を深めました。



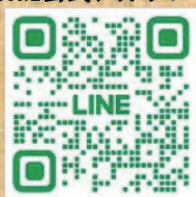


J A静岡経済連直営店 駿府の肉処 静岡そだち

電話予約
問い合わせ ☎ 054-251-4129

静岡市葵区追手町2-15
MRK追手町2階（1階セブンイレブン）

LINE公式アカウント



HOT PEPPER



▲お友達登録はこちら

▲ネット予約はこちら



【新規開始】提携駐車場ののご案内

ランチタイム

平日 11:30～14:00
土日祝日 11:00～14:00

おひとり様あたり1,500円(税込)以上のご利用でサービス券1枚(300円分)

ディナータイム (17:00～22:00)

おひとり様あたり5,000円(税込)以上ご利用でサービス券2枚(600円分)

※ 提携駐車場先により、サービスご利用可能時間が異なる場合がございます。

ランチタイム (45分～1時間)
ディナータイム (1時間半～2時間)

※ お会計時に該当の駐車券をご提示下さい。

※ 当日のご利用に限ります。



- ・稲森パーキング追手町
- ・稲森パーキング本社
- ・稲森パーキング7号
- ・稲森パーキング8号
- ・稲森パーキング9号

担当：営業部 流通開発課 (TEL：054-284-9728)

